

多摩南ニニ通信

(財)東京都保健医療公社
多摩南部地域病院
地域医療連携室第23号
平成11年 8月 1日発行

結核
あなたは大丈夫？

～早く見つけ、すぐ治療～



「国民病」とまで呼ばれた結核も、急速に減少し、現在は恐ろしい病気というイメージはなくなりました。ところが、平成9年に38年ぶりに増加に転じ、院内感染などの集団感染が話題になりました。今年の7月26日には、厚生省より「結核緊急事態宣言」も発令されました。

結核は過去の病気ではありません。一人一人が結核に対して関心を持ち、自覚するよう心がけましょう。

結核ってどんな病気？

結核は、結核菌によっておこる慢性の感染症（伝染病）です。痰の中に菌を出している患者さんの咳やくしゃみとともに、空気中に結核菌が飛散し、それを直接吸い込むことで感染します。

結核に感染しても発病する人は10～15%です。しかし、感染した時は発病しなくても、体の中で菌は生き続け、何年も経って免疫力が低下した時に発病するというケースも多くみられます。

発病しやすいのは、免疫力の低い乳児や高齢者ですが、最近では、若い人の感染も多くなっています。

中学生以下の場合、発病率を低下させる効果のあるBCG予防接種が広く行われています。しかし、約10年程度で効果が薄れてきますので一度受けているからといって安心はできません。

結核を予防しましょう！

①規則正しい生活を？

過労、不眠、不規則な生活は、免疫力を低下させる原因になりますので注意しましょう。

②すすんで健康診断を受けましょう？

早期発見は、早期治療につながります。年1回は健康診断を受け、胸部X線検査等を受けましょう。家族の中に患者が出た時は、必ず家族全員そろって健康診断を受けましょう。

③検査は最寄りの保健所で？

保健所では、定期的に健康診断を実施しています。一般の健康診断は有料ですが、結核患者の接触者（家族など）は無料で検査が受けられます。



治療方法は？

以前は、結核といえば長い療養生活が強いられるものでしたが、現在は抗結核薬ができて、約6～9か月で治療可能になりました。しかし、自覚症状が軽いからといって薬をきちんと服用しなかったり、自己判断で勝手に薬を中断するなど、初期治療が完全に行われないと、どんな薬も効かない「耐性結核菌」をつくることになり、治療は大変困難になります。大切なのは、耐性をつけないための患者さんと医師との連携プレーなのです。

また、患者さんに安心して適正な医療を受けていただくことを目的に「結核医療費公費負担制度」があります。申請・相談窓口は最寄りの保健所で受け付けています。

どんな症状が続いたら結核かも？!

- 咳がとまらない
- 微熱
- 痰が多い（血痰がでる）
- 体がだるい
- やせてきた
- 寝汗をかく

などで、風邪の症状とそっくりです。これらの症状が続くような場合は、早めに受診しましょう。